

科目名	中国語5b A (遠隔授業)	単位数	1単位	学期	前期
担当教員	朱 継征	実務経験の有無		×	
科目区分	カリキュラムマップを表示する	関連するディプロマポリシー			
ナンバリング	X-21-B-2-320238	国際学部B：高度な語学運用力をもって異文化理解の精神を研ぎ澄まし、国際社会において協調的にネットワークを拡張していく意欲と能力を身につけていること			
授業の目的	<p>要領よく説明すれば、誰でも母語話者同然の発音、会話、作文ができる。しかし、習ったばかりのものは定着しにくくて、授業が終わるとすぐ忘れかけてしまう。母語話者の真似をすることが簡単であるが、それよりも母語話者同然の熟練度と定着度で中国語を操作できるかどうか肝心である。私が開発した「速問即答教授法」は、母語話者同然の発音、会話、作文ができた上で、高頻度、高速度の練習によって母語話者同然の熟練度と定着度を目指すものである。会話の段階では、2,000以上の単語と30以上の指定構文を活用できるように指導し、「速問即答方式」の問答練習によって会話力、作文力を高めて定着させる。</p> <p>「速問即答方式教授法」によって、奇跡的に素早く、しかも楽しくコミュニケーションできる中国語の運用能力を身につけてもらうことがこの授業の目的である。</p> <p>授業は下記の計画で進めていくが、授業の状況によって若干変更する場合もある。</p> <p>担当教員としての私は身体でマスクをしたまま授業すると呼吸困難になる恐れがあるので、お互いの安全のために、今学期15回の授業を全部オンライン授業にします。オンライン授業は、中国語会話や口頭作文練習の能率を上げることができ、積極的な意味もあります。</p>				
学修到達目標	<p>実用的中国語運用のための基礎的語彙、文法項目と日常会話の技能を習得できる。基礎を固めて上で、中国語の「聞く」、「話す」、「読む」、「書く」という一般的運用能力が身につく。特に「受信力」(聴力、読解力)より「発信力」(会話力、作文力)を優先に磨いて向上することができる。中国語の日常用語、文法事項を理解し、習得し、教科書と同レベルの日常会話を速問即答できるようになる。</p> <p>①「速問即答」方式の練習によって、2,000以上の基本的語彙を活用できる。 ②「速問即答」方式の練習によって、30以上の基本構文が身につく。 ③教科書と同レベルの日常会話を速問即答できる。</p>				
実務経験との関連性					

授業計画	
第1回	文法1【(1)可能補語(1) 2)単純方向補語 3)複合方向補語 4)動詞+来 5)存現文】
第2回	文法2【(1)可能補語(2) 2)結果補語(1) 3)動詞+補語】
第3回	文法3【(1)可能補語(3) 2)好+動詞 3)感覚動詞 4)動作動詞】

第4回	文法4 【 1)可能補語(4) 2)動詞+得了 3)動詞+不了 4)形容詞+得了 】
第5回	文法5 【 1)可能補語(5) 2)連動文(1) 3)有+名詞+動詞 4)沒有+名詞+動詞 】
第6回	文法6 【 1)結果補語(2) 2)接続詞 3)前置詞 4)動詞+在 】
第7回	文法7 【 1)疑問文 2)結果補語(3) 3)“够”の用法 】
第8回	文法8 【 1)数量詞 2)前置詞“连” 3)結果補語(3) 】
第9回	文法9 【 1)兼語文(1) 2)接続詞“不管” 3)接続詞“无论” 4)様態補語 】
第10回	文法10 【 1)可能補語(6) 2)結果補語(4) 3)副詞“又” 4)副詞“再” 】
第11回	文法11 【 1)兼語文(2) 2)兼語文(3) 3)量詞の用法 4)結果補語(5) 】
第12回	文法12 【 1)兼語文(4) 2)兼語文(5) 3)方向補語(1) 4)“下去”の用法 】
第13回	文法13 【 1)方向補語 2)複合方向補語 3)“上”の用法 4)“起来”の用法 】

第14回	文法14【 1) “等” 構文 2) 助動詞(1) 3) 目的語 4) “是～的” 構文 】
第15回	文法15【 1) 助動詞(2) 2) 受動文 3) 主述構文 4) “敢” + 動詞 】
第16回	期末試験

授業時間外の学習	
【予習】時間・内容	1時間。新出単語と本文を予習すること。
【復習】時間・内容	1時間。授業で学んだ内容について繰り返し練習し、単語、語法、本文などを復習すること。

成績評価	
評価基準・方法	期末試験の点数（60%）、毎回の授業での作文と会話（30%）、授業参加状況（10%）を合わせて総合的に評価する。
フィードバック方法	定期試験の問題点を総括して説明する。

アクティブラーニング	
実施の有無	○
実施内容	ディスカッション、ディベート
教科書/参考書	『着実にまなぶ中国語・初級～中級編』 讀井唯允著、朝日出版社。
受講上の留意点等	辞書を持参すること。 予習・復習をすること、積極的に作文や会話に取り組むこと。
JABEE	

科目名	中国語5b B	単位数	1単位	学期	前期
担当教員	姜 杰裕	実務経験の有無		×	
科目区分	カリキュラムマップを表示する	関連するディプロマポリシー			
ナンバリング	X-21-B-2-320238	国際学部B：高度な語学運用力をもって異文化理解の精神を研ぎ澄まし、国際社会において協調的にネットワークを拡張していく意欲と能力を身につけていること			
授業の目的	<p>今まで学習した内容を基礎にして、中国語の複文を学び続け、それを理解し運用する方法を身に付け、語彙の量をさらに増やし、場面応用の会話能力を高めると同時に日常生活及び大学生活の中で自分の言いたいことを文章に表現できるように中国語運用能力を高めていく。</p> <p>DVDなどの資料を通じて中国の文化を紹介し、中国語への理解と高度な応用に役立てたい。</p>				
学修到達目標	<p>テキストに出てきた旅行、買い物、病院、両替、料理の注文などの場面での会話が自然にできるようにグループに分けて練習し、コミュニケーション能力を高めていく。基礎文法をしっかり運用できる上に複文の文法を理解でき、その上に自分の考えを文章にまとめられるように作文能力を付けていく。中国語検定3級、HSK4級合格レベルに達する。</p>				
実務経験との関連性					

授業計画	
第1回	休み間の出来事の発表・基礎文法の復習・確認
第2回	第七課 新出単語・文法解説 応用練習
第3回	第七課 本文解説・ドリル答え合わせ・会話練習

第4回	第八課 新出単語・文法解説・本文解説
第5回	第八課 文法応用練習、ドリル答え合わせ・会話練習
第6回	第九課 新出単語・文法解説・本文解説
第7回	第九課 文法の応用練習・ドリル・作文
第8回	第十課 文法解説・応用練習
第9回	第十課 本文解説・ドリル答え合わせ・会話練習
第10回	作文一 買い物方法について話し合い、作文する。
第11回	第十一課 文法解説・本文読解
第12回	第十一課 文法まとめ・ドリル答え合わせ・会話練習
第13回	第十二課 新出単語・文法解説 応用練習

第14回	第十二課 本文を解説・ドリルの答え合わせ・会話練習
第15回	総復習、質疑応答
第16回	期末試験

授業時間外の学習	
【予習】時間・内容	単語の量が多い為、事前に必ず予習しておく。習った文法・語彙を使って積極的に質問したりコミュニケーション能力を高めるためにグループワークで練習するので、事前に質問を考え用意して置く。テキストの練習問題も配ったプリントも真面目に解き、問題を解決する。自分で解決できない場合は次の授業の時に教員或いは同級生に聞き、解説する。予習する時間4時間以上。
【復習】時間・内容	習った単語は必ずCDを聞きながら発音が正しくできるようにする。本文も同じくCDを聴き、正しく尚且つ流暢に読めるようにする。練習問題とプリント練習により文法の理解度を確認し、問題点を解決する。作文について訂正されたところを確認し理解する。日常生活の中で意識的に中国語を使い、毎日中国語に触れるよう工夫をする。復習時間4時間以上。

成績評価	
評価基準・方法	期末試験40%、小テスト(20%)、宿題(20%)、授業参加意欲(20%)、合わせて期末成績を評価する。
フィードバック方法	練習問題については毎回答え合わせと質疑応答をする。小テストについてはその場で答え合わせ、解説する。試験については試験後に模範解答、講評を発表する。

アクティブラーニング	
実施の有無	○
実施内容	グループワーク/プレゼンテーション

教科書/参考書	「温故知新！中国語Ⅱ」 虞萍 著 朝日出版社 2200円
受講上の留意点等	<p>単語量も文法量も多くなり予習復習をしっかりとる。毎日中国語の音読を習慣化する（CDを聴き発音を確認する）。会話練習は授業の都度実施するので、積極的に参加する。日常生活の中で友人と中国語を使ってみる。特に習ったばかりの文法や単語を意識的に使ってみる。小テストや練習プリントなどで指摘され問題点を正しく応用できるようになるまで復習する。自分で書いたものは必ず声を出して言えるようにする。</p> <p>※事情により授業の予定が変更する場合もある。</p>
JABEE	